

令和4年度小学校動物飼育推進校 実践事例

— 生命の尊さを実感させる継続的な動物飼育 —



令和4・5年度 小学校動物飼育推進校

- 墨田区立東吾嬬小学校
- 世田谷区立松沢小学校
- 中野区立美鳩小学校
- 青梅市立河辺小学校
- 多摩市立連光寺小学校

○令和4年度の実践事例

- ・ 衛生管理に係る実践事例
- ・ 体験活動に係る実践事例
- ・ 研修会に係る実践事例

過去の実践事例及び令和4年度の実践事例等については、東京都教育委員会ホームページに掲載しています。

<https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/school/content/animal.html>



衛生管理に係る実践事例



推進校では、飼育動物の衛生管理を適正に行っていくに当たって、学校担当獣医師から飼育動物の健康診断や飼育環境についての指導・助言等の支援を受けています。



実践事例

墨田区立東吾嬬小学校

【実践の概要】

- 第5学年・6学年の飼育委員会の児童が、ウサギのケージの掃除、水替え、餌やりをしています。
- 実際に児童が世話をしているところを学校担当獣医師に見ていただき、指導・助言をいただきました。



世話の仕方について、助言をいただいているところ

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 飼育委員会活動時、ゲストティーチャーとして学校担当獣医師をお迎えし、実際に当番活動で行っている世話の仕方を見てもらいました。
- ウサギを持ち上げるとき、立って行わないこと、飲み水の量に気を付けること、えさは「チモシー」を与えることで歯の伸び過ぎを防ぐことができることなどを教えてもらいました。
- 玄関で飼育しているため、様々な人が通ったり、音がしたりします。ウサギが隠れることができるような小屋や周りに囲いを付けて視線を避けることなどを教えてもらいました。
- 夏の暑さや冬の寒さの対策として、飼育用ゲージをエアコンが点いている部屋に入れ、ウサギの負担を減らすことを教えてもらいました。

【児童の反応】

- 飼育委員会の児童が世話の仕方の意味を覚えてもらったことで、動物の命を預かっているという使命感をもつことができました。毎日、飼育日誌を書き、ウサギの体調変化に気を配ることができました。
- 飼育委員会の児童は学校担当獣医師から世話の仕方を教えてもらっていたことにより、第2学年の児童が生活科でウサギの世話を体験したときには、自信をもって第2学年の児童に世話の仕方を教えたり、世話の様子を見守ったりすることができました。



実践事例

世田谷区立松沢小学校

【実践の概要】

- 飼育委員会（第5学年・第6学年）の児童が、学校担当獣医師からうさぎが快適に過ごせる環境について教えていただき、今までの飼育方法を変えて小屋の掃除、餌やりをかかさず行っています。
- 第1学年の児童は、ウサギなどの動物と触れ合う学習を通して心臓の音を聴いて動物の体調の変化についての話を伺いました。



【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 飼育委員会の活動では、ゲストティーチャーとして学校担当獣医師をお迎えし、実際に飼育小屋の環境やウサギの健康状態等を確認いただいた後に、指導・助言をいただきました。

【児童の反応】

- ウサギが餌によって体重が変わってくる話を受けて、人参を食べる量をへらしたり、体重を測ったりして健康管理に気を付けることができました。
- ウサギの生態を知ることによって、ウサギに興味をもち、前に比べてよく観察をするようになるなど飼育活動に関する意識が高まっています。
- 第1学年の児童は、ウサギに興味をもち、ウサギ係を作りウサギに餌をあげたり掃除をしたりするなど飼育活動を行うようになりました。



実践事例

中野区立美鳩小学校

【実践の概要】

- 第5学年、第6学年の飼育委員会の児童が、モルモットが気持ちよく過ごせるように、小屋の掃除や餌やりを行いました。
- 第1学年、第2学年の児童が学校担当獣医師から、モルモットの飼育の仕方や、抱き方、飼育日誌の書き方などの話をしてもらい、上手に飼育ができるように取り組みました。



飼育委員会が丁寧に掃除をしています。

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 学校担当獣医師に来ていただき、第2学年の教室のモルモット小屋の状況を見てもらいました。干し草の量や住处など適切な環境になっているかを助言して頂きました。



【児童の反応】

- 第2学年の児童は、掃除の時に干し草の量を考えて、小屋掃除をしたり、汚れたカップを丁寧に洗ったりするなどして飼育環境を整えています。
- 助言していただいたことをもとに、第2学年の児童が第1学年の児童に対して、小屋掃除や飼育日誌の書き方などを教えることができました。
- モルモットの体に少しでも変化が出た時には、すぐに担任の先生に報告するなど、モルモットを飼育する意識が高まりました。



実践事例

青梅市立河辺小学校

【実践の概要】

本校では、ウサギを2羽飼育しています。飼育委員会の児童は、学校担当獣医師から生き物を飼うこと責任や、具体的な飼育方法について教えていただきました。



ウサギの爪を切る様子

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

学校担当獣医師から、次のことを教えていただきました。

①飼育小屋の清掃、環境整備の仕方

飼育小屋の中にあるものを全て出して、古い牧草や糞で汚れた床を掃除しました。心地よいと感じる環境を作ります。

②ウサギの抱き方

落ちないように低い位置で、そっと両手で抱きます。バスタオルなどで包むとよいです。

③ウサギの健康状態

ウサギの体重からえさの量を計算しました。食べている様子や糞から健康状態をみます。

④ウサギの爪の切り方

2人体制で行います。1人はウサギを抱き、1人がそっと爪を切ります。

【児童の反応】

- 衛生的な飼育小屋を維持しようと意識して清掃活動を行うようになりました。
- 健康を考え、えさをウサギの好きなペレット中心から、牧草中心に変えました。
- 分からないことを学校担当獣医師に質問するなど、飼育への興味や関心が広がりました。



実践事例

多摩市立連光寺小学校

【実践の概要】

本校では、2頭のシバヤギの親子(母親と子)、ウサギ2羽を飼育しています。

実際の飼育環境を見ていただき、飼育動物が病気やけがなどなく過ごせる環境であるか、エサ、清掃などの世話や、人のふれあいは適切であるかについて、指導・助言をいただきました。

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

6月の年度当初の計画立案の際の相談時に、飼育動物を視察していただきました。また、9月の飼育委員会児童への飼育動物の世話についての心構えや飼育環境を整えることについての指導、1月には教員向けに飼育動物への飼育心得、学校としての取り組み方、衛生管理で気を付けることなどを研修会形式で実施しました。

特に、ウサギの飼育環境については、屋外の小屋で床部が砂地であったため、糞尿を完全に取り除くことが難しく、衛生環境的に厳しいとの指摘を受けました。校内で検討を行い、12月より1羽ずつ大きめのケージに入れ、校舎内で飼育するよう変更をした。また、餌は草を人工的に固めたものではなく、学校敷地内に生えている草を中心に与えるとウサギの健康上もよいとアドバイスを受けました。

【児童の反応】

○ ウサギの飼育環境を変えたことで、児童が休み時間や放課後に日常的に飼育動物と触れ合えるようになりました。ケージ飼いに変更した12月より、ウサギの世話をこれまで飼育委員会が行っていたところを、ウサギのふれあい授業を終えた2年生に全面移行することになりました。飼育動物がより身近になったといえます。

また、特別な支援を必要とする児童が、クールダウンの場としてウサギと接することで情緒の安定に寄与する結果も生まれました。アニマルセラピーとして有効活用していきたいです。



室内ケージ飼いになったうさぎ

体験活動に係る実践事例



推進校は、生活科における継続的な動物飼育に係る指導方法を開発する等、生命の尊さを理解させ、動物愛護の心を培う体験活動に取り組んでいます。体験活動の実施に当たっては、学校担当獣医師から支援を受けています。



実践事例

墨田区立東吾孺小学校

【実践の概要】

- 第1学年を対象にウサギに触れる、第2学年を対象にウサギの様子を観察し、世話をする触れ合い体験を実施しました。
- 世話の仕方については、第5学年、第6学年の飼育委員会の児童に教えてもらいながら学びました。



2年生児童が世話をしている様子

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 児童がウサギについて知りたいことを学校担当獣医師にあらかじめ伝えておき、授業ではゲストティーチャーとして質問に答えていただきました。
- 本校のウサギは臆病な性格で、なでることはできますが、抱っこをすることは難しいです。そのため、ウサギの抱っこが上手にできる動物看護師が抱っこしている様子を動画に撮っていただき、提供してもらいました。



【児童の反応】

- いつも見ている動物でも、実際に触ってみると、温かさを感じたり、エサを食べている様子や排泄の様子を見たりすることで生きていることを実感したりしました。一つの事を知ることで、次の質問につながり、知りたいことが増えていきました。
- 第2学年の児童は世話をすることをとても楽しみしていました。何度か世話をする機会をもつことで命に対する気付きが深まったと感じました。



実践事例

世田谷区立松沢小学校

【実践の概要】

- 第1学年で「動物ふれあい教室」を実施するにあたり、学校担当獣医師から、事前にオンラインで動物と触れ合うときに気を付けることなどについて指導助言していただきました。当日は、「ウサギと触れ合う体験」「犬と触れ合う体験」、「ウサギの心臓の音を聴く体験」、「動物に使う手術器具の話」の四つのコーナーに分かれて体験学習を行いました。



【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- それぞれのコーナーで消毒を行うなど感染症対策をしながら活動を行いました。保護者にボランティアで来ていただいてウサギや犬がびっくりしないように「走らない」や「大声を出さない」などの注意喚起をしていただき、安全に触れ合えることができました。

【児童の反応】

- 初めて動物と触れ合う児童もいて、「ふわふわする。」や「気持ちいい。」、「意外と早い。」などといった触れ合うことで気付くことが多くありました。
- ウサギに触れ合うことでウサギに興味をもち、休み時間にウサギ小屋に行き観察をすることが増えました。
- ウサギの心臓の音を聴く体験活動を通して、人と動物では心臓の音の速さが違うことを感じ取ることができました。「他の動物はどのくらいの速さなのだろう。」と考える児童もいて、学びが広がりとても良い活動になりました。



実践事例

中野区立美鳩小学校

【実践の概要】

- 第2学年は9月中旬から、飼育小屋から教室にモルモットを連れて行き、世話をしました。
- 1月下旬には、第1学年にモルモットについての説明会を行い、来年度への引き継ぎを行いました。

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 生活科の学習において、学校担当獣医師より正しい抱き方や餌、病気などの飼育の際に大切なことについて助言をいただきました。
- 学校担当獣医師が持参した心音機を使って、モルモットの拍動の速さや音について学習しました。
- 冬休みには、モルモットを家庭で飼育してもらうホームステイを行いました。



少しずつ上手に抱けるようになりました。



【児童の反応】

- モルモットが来てから、休み時間に世話をできるようになり、前よりも学校が楽しくなったという児童が増えました。
- 気持ちが落ち着く児童が増え、生き物を大切にしようとする心が育まれていきました。
- モルモットの世話や小屋掃除などを通して、友達と協力して生き物を大切にする姿が見られるようになりました。



実践事例

青梅市立河辺小学校

【実践の概要】

今年度は、第1学年の生活科「生きもの大すき」の単元と第2学年の生活科「生きものはっけん」の単元の中で、「いのちの授業」を行いました。

学校担当獣医師から、動物による違いやウサギの生態、人間と同じように命をもっていることなど、多くのことを学びました。



ウサギの心音を聞いている様子

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

学校担当獣医師から、主に、次のことを教えていただきました。

- ①人間だけでなく、様々な動物が生きていること
 - ・身近な動物や知っている動物
- ②ウサギの体のしくみ
 - ・ウサギの歯（どれがウサギの歯？）
 - ・ウサギの耳（ウサギの耳が大きいのはなぜ？）
 - ・ウサギの目（横についているのはなぜ？）
 - ・ウサギの尻尾（どれがウサギのしっぽかな？）
 - ・ウサギの寿命（何歳まで生きられるのだろうか？）
- ③ウサギの心音と人間の心音を比べたら
 - ・心音を聞き取る機械を使ってたしかめました。
 - ・人間よりずっと心臓が速く動くことが分かりました。

【児童の反応】

- ウサギのことを知り、親しみをもつようになりました。
- さらに知りたいことがたくさん挙がり、まとめて学校担当獣医師に質問をするなど、ウサギの生態についての関心が高まりました。
- 他の動物のことも調べたいと意欲をもちました。
- ウサギの心音を聞いて、生きていることを実感しました。



実践事例

多摩市立連光寺小学校

【実践の概要】

第2学年（2学級）において、7月にはヤギとのふれあい授業、10月にはウサギとのふれあい授業を実施しました。

ヤギでは、子供たちが実際に触れ合った後に、ヤギの生態について分かりやすく説明していただき、児童の疑問を解決することにつながりました。

ウサギでは、実際に児童の腕の中に抱えることができることから、人とウサギの心音を聞いたり、体の特徴を体感したり、人もウサギも落ち着いて触れ合う心構えや抱き方などを教えていただきました。

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

学校担当獣医師からは、ヤギもウサギも、動物の立場や気持ちになって考えて対応することが大切であることを学びました。お腹を見せているのは安心して証拠、糞があれば気分がよくないのできれいにした方がよい、下痢にならないように栄養に富むエサは避ける、触れるときには優しく触れるのは人も同じであるということであるなど、動物とふれあう時の基本的なスタンスを学ぶことができました。

ウサギのふれあい授業では、保護者に児童補助として手伝っていただきました。これも、動物と優しく接するための手だてです。

【児童の反応】

初めてウサギを抱く児童も多く、動物への愛着を深めた授業となりました。興奮を抑え、動物の身になって接することで互いの安心感を得ることができると実感できたようです。もっとふれあいたいというのが児童の本音でした。



自分の心音を聞く



うさぎを抱いてふれあう

研修会に係る実践事例



推進校は、動物の適正な飼育や動物愛護の心を培う体験活動の実施に向け、研修会を行っています。その際、学校担当獣医師から、動物飼育に関わる専門的な内容について指導を受けています。



実践事例

墨田区立東吾嬬小学校

【実践の概要】

ウサギの飼育環境の管理について、管理職、飼育委員会担当教諭、低学年担当教諭を対象に、学校担当獣医師から具体的に話をさせていただきました。



手術後のウサギの様子

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- ウサギの抱っこの仕方、爪切りの仕方、飲む水の量の把握、「チモシー」と固形のエサのバランスなどについて教えていただきました。
- 11月には、ウサギの繁殖制限処置の手術について教えていただきました。
- 1月に学校担当獣医師の紹介を受けて、別の獣医師に手術をしていただきました。
- 手術後のウサギの体調管理について、薬の投与、青菜の与え方等について教えていただきました。

【教員の反応】

- 本校のウサギは大変臆病であることが分かり、少しずつ、人に触られることに慣れさせていく必要性が分かりました。
- ウサギの飼育環境の管理について、飼育委員会の児童に自信をもって教えることができました。
- 手術後、元気がなかったウサギが、快復後は「チモシー」を食べる量が増え、活発に動くようになったのを見て、手術をしてよかったと思いました。



実践事例

世田谷区立松沢小学校

【実践の概要】

- 学校担当獣医師をお招きし、ウサギの飼育方法についてお話を伺いました。
- 餌や飼育環境について、良い点や改善点を教えていただきました。
- 第1学年生活科の動物のふれあい学習をどのように進めていくのか、注意事項等を教えていただきました。



【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 教員から獣医師へ質問し、それに回答していただくことで、今後の動物との関わり方や飼育環境について、具体的な改善案や方法を知ることができました。

【教員の反応】

- 学校担当獣医師から指導を受け、学校での適切な飼育活動における基本的な知識を身に付けることができました。
- 動物飼育を担当することは初めてでしたが、良い点や改善点も教えていただいたことで、不安が解消しました。
- 事前に、ふれあい学習の進め方や注意事項等を細かく教えていただいたことで、当日もスムーズに進行することができました。



実践事例

中野区立美鳩小学校

【実践の概要】

- 学校担当獣医師をお招きし、教員を対象にモルモットの飼育などの学校における動物飼育の意義や目的などを学ぶ研修会を実施しました。
- モルモットの病気や食べ物などの具体的な例を学校担当獣医師から教えていただきました。
- モルモット飼育を通じた児童への指導について、過去の事例を基に様々なことを助言していただきました。



モルモットの病気について教えていただきました。

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 飼育を開始してから3か月後に、2度目の研修会を行いました。研修会前に第2学年の児童や担任教員より、疑問点などを伝え、研修会で助言をいただきました。
- 具体的な助言をいただいたことで、第2学年の担任教員が適切に飼育ができているかを確認する機会を作ることができました。



【教員の反応】

- 学校担当獣医師からの指導を受け、モルモットの生態について児童だけでなく教員も詳しく知ることができました。
- 複数の学校担当獣医師が研修会に参加してくださったことで、質問に対して様々な角度からお答えしていただき、モルモット飼育に対する自信をもつことができました。



実践事例

青梅市立河辺小学校

【実践の概要】

冬休みに入る前に、教員を対象とした、研修会を行いました。学校担当獣医師から、学校で動物を飼育することの意味や、動物と触れ合うことの効用、動物飼育の留意点などいろいろ教えていただきました。



獣医師の先生が用意してくださった、ウサギの巣箱

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

学校担当獣医師から、主に、次のことを教えていただきました。

○ 学校で動物を飼育することの意味

動物は、人に癒しを与え、動物との触れ合いによって心を開く子供もいることを改めて考えました。動物の病気や死を通して、命について考えたり、大切にしようとする気持ちが育まれたりする、教育的な意味も理解しました。また、世話をすることを通して責任感が芽生え、自律した生活を行うようになった事例も伺いました。

○ 動物飼育の留意点

清潔な環境を保つためには、児童任せにせず、教員も掃除をして衛生管理をしていく必要があることを再認識しました。本校のウサギは高齢であることから、健康状態を見ていくことの大切さや、エサの量や与え方についても学びました。また、気温が下がってきた時の対応方法も教えていただきました。

【教員の反応】

- 飼育委員担当の教員だけにウサギの世話を頼むのではなく、教職員全体で、飼育する必要があると感じました。
- ウサギにとって快適な環境を整えることが大切だと思いました。
- 動物飼育を教育的な目的にも活用していきたいです。



実践事例

多摩市立連光寺小学校

【実践の概要】

校内で飼育する動物は、教育活動の中に生かすことで大きな効果を生みます。着をもって接することで、距離が縮まり、共生するものという意識が児童に生じるはずで、それが人を含めた生き物にやさしく接するということにつながります。また、その過程では、ぜひ飼育動物の「死」にも関わらせたいと考えています。「死」を目の当たりにするからこそ、大切にしようという思いが育まれるはずであり、愛着が生まれるはずで、

学校の取り組み方として、世話は児童だけではなく、保護者や地域の方もできるとよいと思います。学校の負担軽減もあるが、児童の周りの人々優しい気持ちをもつことができます。



人と動物の関わり方の一例紹介

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

1月に教員対象の動物飼育研修会講師として学校担当獣医師に講義をお願いしました。単に学校で動物を飼っているということではなく、その必要性和可能性についてお話ししていただきました。また、保護者や地域との連携を飼育活動で進めていくことの必要性についてもお話しいただきました。

【教員の反応】

教育活動の中で、どのように活用していこうかという発想が教員に生まれました。2年生に移行したウサギの世話を、次年度どのように次の第2学年に引き継がせるかなど、計画づくりも進みました。また、保護者や地域との飼育連携についても、お便りやホームページでの周知、学校運営協議会での声かけ、口コミ等、協力依頼を発信することにつながりました。